

## 【出展】 Enterprise Watch

ウェブページタイトル：XMLがGoogleを不要にする？ サイバーテックがNeoCoreサミット2008を開催

URL：https://enterprise.watch.impress.co.jp/cda/topic/2008/10/23/14140.html

最終アクセス年月日：2008年10月23日

# Enterprise

## Watch

最新ニュース

### XMLがGoogleを不要にする？ サイバーテックがNeoCoreサミット2008を開催

株式会社サイバーテックは10月22日、XMLおよびXMLデータベースにフォーカスしたプライベートイベント「NeoCoreサミット2008」を開催。「第1回 XMLサミット ～第一人者が語る、XMLは本当に使えるのか？」と題したパネルディスカッションが行われた。



サイバーテック代表取締役社長の橋元賢次氏

パネリストとして、インフォテリア株式会社 代表取締役社長の平野洋一郎氏、株式会社東京証券取引所（以下、東証） 上場部 上場会社担当 課長の吉田幸司氏、マイクロソフト株式会社 システムテクノロジー統括本部 インフォメーションワークプラットフォーム本部 部長の佐藤邦久氏、株式会社モディファイ CEO兼クリエイティブディレクターの小川浩氏の4氏が登壇した。モデレータはサイバーテック代表取締役社長の橋元賢次氏。

#### ■ 上場会社の情報公開やOfficeでも使われるXML

吉田氏は東京証券取引所（東証）において、XBRLを用いた適時開示を担当。「XBRLは、財務情報の配信に特化したXMLベースの言語。東証では、全国の証券取引所の上場会社の開示情報を閲覧できるサービスとしてTDnetを提供しているが、このTDnetにおいてXBRLは上場企業の情報公開で利用されている」と説明。「このTDnetは7月のリニューアルで、上場企業の財務情報公開でXBRLを義務化した。全上場企業の財務情報をXBRLで提出しているのは、日本が世界に先駆けている」と、上場企業の開示情報の裏側でXMLが活用されていることを紹介した。



東京証券取引所 上場部 上場会社担当 課長の吉田幸司氏

XMLが使われている事例としては、マイクロソフトのOffice 2007が有名だ。マイクロソフトでは、独自のファイル形式を用いていたOffice文書ファイルで、Office 2007よりXMLベースの「Office Open XML」フォーマットを採用した。佐藤氏は、「Officeの枠を乗り越えて利用されるフォーマットになってい



る」と紹介するように、Office Open XMLはISO/IECの標準規格として採択されている。「Office Open XMLを採用したことで、レガシーシステムとの連携を模索したり、バックエンドにあるBizTalk ServerやXMLデータベースと連携した運用などの案件も増えている。今は、さまざまなXMLをどのように表現するかといった課題にも取り組んでいる」と、マイクロソフトとしても積極的にXMLに取り組んでいるとした。

マイクロソフト、システムテクノロジー統括本部 インフォメーションワーカープラットフォーム本部 本部長の佐藤邦久氏

## ■ 標準フォーマットに最適なXML

ではなぜXMLが各分野で使われているのか。XMLベースのフォーマット「RSS」を事業の核にしている小川氏は、「XMLは、データとデータがコミュニケーションするのに使われているフォーマット。柔軟性があるため、さまざまな場面で使われている」と説明した。また、XMLを標準フォーマットとして利用することの重要性も強調。「情報発信を行うのに、標準フォーマットは大切なもの。これがないと互いに情報を交換できないからだ。東証でのXBRLの事例が興味深いのは、世界に先駆けて標準フォーマットとして採用した点にある」と、標準化がXMLというフォーマットを理解する手助けになることを紹介した。



メディアファイ CEO兼クリエイティブディレクターの小川浩氏

これを受け、平野氏からは、「日本の企業は国内で守っていればなんとかなった時代から、国際的に対応しないとイケない時代に入っている。そうした中で、XMLによる標準化は、業界そのものの標準化につながる。XML活用により、企業は国際対応にもつながっていく」と、XMLへの理解が必要との認識を示した。平野氏は、XMLの黎明（れいめい）期よりXMLベースのソフトウェアを開発してきており、XMLの伝道師的な存在だ。「98年に創業したが、最初の3年間は自社製品よりもXMLそのものの普及活動を行っていた」と紹介。OfficeがXMLを標準フォーマットに採用したことについても、「（標準化という観点から）XMLを使うことは予想されたこと。私から見れば、10年かかってやっと実現したという印象だ」と、辛口のコメントもあった。



インフォテリア 代表取締役社長の平野洋一郎氏

## ■ XMLが生み出す将来の価値とは？

このXML、今後どのような価値を生み出すのだろうか。平野氏は、「XMLは、当初RosettaNet（電子商取引の標準化団体）の受発注のように、渡したらそれで役目を終える揮発性の高いデータとして利用されていた。しかし、Office Open XMLのように、最近ではそのまま蓄積されるデータのフォーマットとして使われている。今後、インターネットのデータがXML化すれば、インターネットそのものがデータベースとなっていくだろう。そうなれば、タグ付けされたり、意味づけされたXMLが蓄積されるので、Googleの

ような検索エンジンは不要になる」と述べた。

小川氏は、「Googleが存在しているから、インターネットがデータベースっぽくみえているが、実はそうではない。XMLが主流になると、本当にインターネットがデータベースになる」と指摘。「XMLによるつながりは、最終的に人と人とのコミュニケーションにまで使われるようになるだろう。好む・好まないにかかわらず、そうした方向に進んでいるのは確かだ。こうした時代が“Web 3.0”と呼ばれるのではないか」と締めくくった。

■ URL

株式会社サイバーテック

<http://www.cybertech.co.jp/>

( 福浦 一広 )

2008/10/23 00:00

Enterprise Watch ホームページ

Copyright (c) 2008 Impress Watch Corporation, an Impress Group company. All rights reserved.